

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより  
逢いてエ

# 雑報 緋文

いろいろ考えがあつたら面白い  
いろいろ人がいるのが楽しい

No.611

2022年2月刊

編集・発行 鈴木厚正

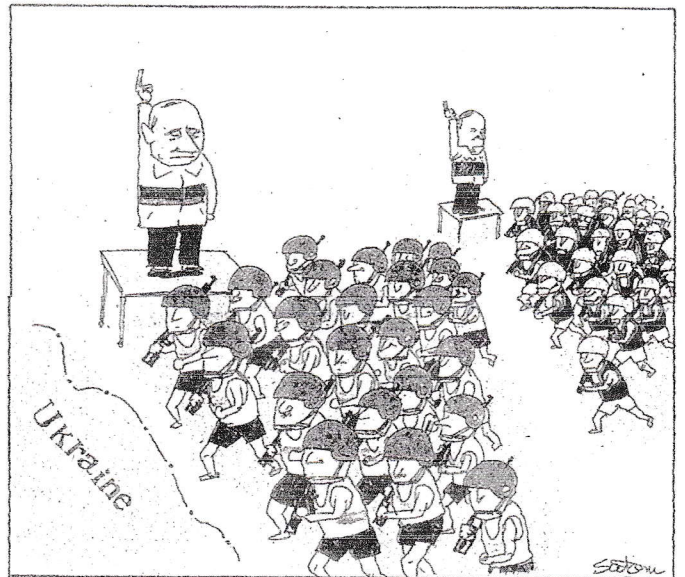
〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

ま・く・じ

- あの山の向こうに 2
- 放射線障害とALPS処理水 5
- 陽性者の地域による差異 8
- ちび更いから 10
- サイの神 14
- 山仕事(1月 "かがり犬") 19
- ウクライナ危機と原発活用懸念 24
- コロナ日誌 25
- け・い・じ・ぼん ④

## たたかいは スポーツだけに。



この見

### レディ!!

佐藤 正明

2022.1.26

2月5日現在の  
会員数228名

年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 掛い込んで下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カット: 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、絵本の世界  
しろくまちゃんのほっとけーき

# 山仕事 (1月、大平)

(『かがり火』支局長 オンライン会議)

1月24日(月)。夜の雨は明け方には上がった。数日前にくらべると少し暖かくなった。天浜線敷地駅で、康江さんと久しぶりに参加の土井二郎さん(築地書館社長)と合流。土井さんは、昔風に言えば六尺豊かき偉丈夫。頼りになりそうだ。

深澤明男・富士Aさんの豊田農園で、今回もミカンエドツクリいたたく。宮川早生だったか、大粒から小粒まで変わらずおいしい。ほくは、このミカンがある時はペットボトルの飲料エロにしたことがない。いつもありがとうございます。

買い物を終えて正士さん宅へ。まもなくシタケ農家の青山忠義さんが見えて、一緒に丑雄さんちの裏の高台に登る。

前回伐採したコナラから、シタケ栽培の原木を作る指導を受ける。長さは1m、先端の木さは5cmまで許容という。それ以上細いと、シタケの種コマを打つのが難しくなるからだ。かくて、3組(正士・土井、原田・山崎、若林・ほく)に別れて作業にかかる。(カラス:正士さん)



若林 ほく 土井 青山 山崎 原田 土井さん ほく 森さん

この日のうちに作業が終わると思ったが、どう簡単にはいかなかった。枝葉を付けたまま横倒しとなった木は、枝が輻輳し身動きがしにくい。

混み合った枝の中で作業するうち、夕方近く、英ちゃんがチェーンソーで左足の甲をきずつけてしまった。筋肉や骨に異常はなさそうだが、正士さんと磐田病院へ。帰宅が遅くなりそうと夕食。

(女)カツオの刺身、ネギの豚バラ巻、大根と人参のけんちん煮、菜花のからし和え、シラス干しと大根おろし、新玉ねぎと白菜のサラダ、シカ肉の刺身(森町の袴田さんから)、かまぼ

ことゴボウ巻(康江さんが山口・萩市から送ってくれた、忠小兵衛製)、かまぼこ原料となったエソのパラミ、そして土井さんが山梨の山歩きの際に購入した清酒「開運」(河口湖町井出醸造店。開運は、静岡・土井醸造店のもあるが、また別の美味さだ)

20:40、正士さんと英ちゃんが帰宅。9針縫ったとのこと。さんな訳で、正士のソバはなし。人数が多いので、英さんと二人、母屋で寢室に寝る。

1月25日(火)。くもり。英ちゃんが発熱した。検温38.6度。正士さんは全員の体温を測った。ほくは36.6°。ほかの人も平熱だった。英ちゃんはこの後も寝続けた。

ほくにも異変が起きた。水様便が止まらないのだ。昨日の続きの作業をしながら、何度も物がけで用を足した。昼前には吐いた。

以前、同じようなことがあった。ほくが一人で正士さんちへ行っていた頃、正士さんは豊岡村の課長職だった。ほくは一人で虫生(むしめ)の暗いスギ山で、嘔吐と下痢をくり返しなから、のまず喰わずで下痢を続けた。

あの時は、ノロウイルスだったような気がする。しかし、今回は違うようだ。カキに当たったこともある。だが前日、静岡で買ったのは近海産のカキフライ。生なるともかく、フライで当たる筈はない。

残りは一つ、消化不良だ。4/1本の菌の悪いほくは、日頃、ろくに噛ま(め)ずに食物のみ下し、「あとは頼むよ」と始末を胃腸に押しつけてきた。おまけに、出発前の何日か寒かった。22日は2階トイレの水栓が凍って水が出なかった。台所に下りてみると水流が細くなっていた。4時だからまだしも、あと2時間もしたら凍結しただろう。

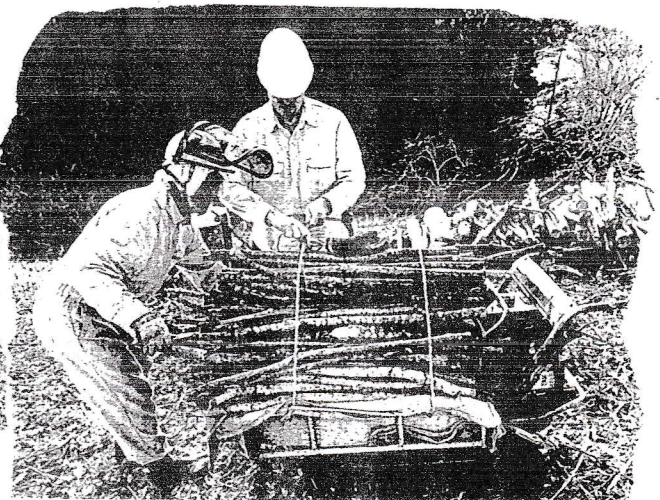
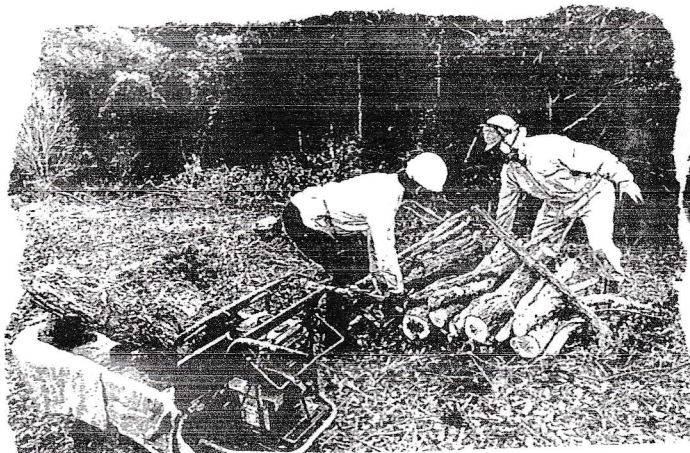
朝晩の食事時は12度設定とほいえガスストーブをつけるからよいが、陽が射さないときの室内温度は5~7°C。その中で字を書いたり動かさないでいると、冷える。おまけに24日出発の朝、残しちゃいけないと残り物を詰め込んだ。「いい加減にしろ」と胃腸が不貞腐を決り込んだのだ。

唯一の対応は、食べないこと。25日は昼から絶食した。夜も居並ぶごちそうを指さくゆえてみていた。おしまいに、正士さんの手打ちツバエ2本たべただけだ。

翌26日朝もごはんはパス。昼のけんちゃんとは、つゆだけ。久米さんが秘蔵の枇杷酒と黄薬(キハク)の錠剤をのませてくれて、帰宅したときは、ほぼ回復した。

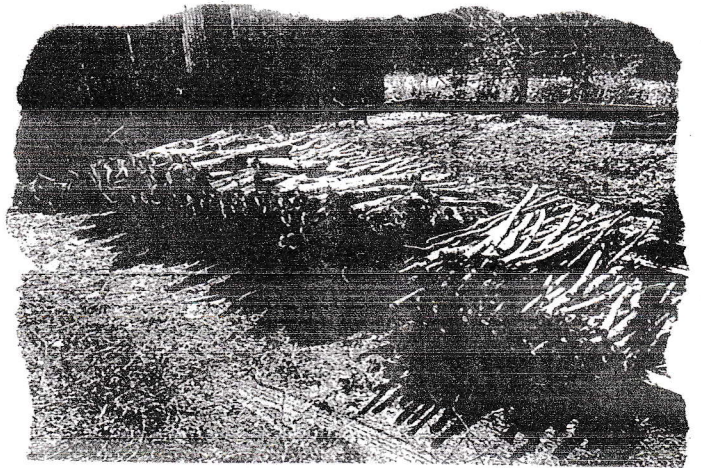
閑話休題。25日昼に突る。

昼食は、けんちゃんツバ(乾めん)、ホウレンソウのお浸し、イカ人参、玉子焼、白菜漬け。午後は、シタケ原木の運び出しが始まる。急坂の上、23日の雨で滑りやすい。軽トラックは四輪駆動でも危ないので、無限軌道の運搬車。担当は、カサゴの土井さんと若林さん。久米さんも入って残りは小枝の整理。ほくはほぼ見学。



できた原木は、ほとほとのクオ本と細いのが、20本ほど。軽トラックに積みか  
えて、皆で500mほど離れた青山さんの原木置き場に運び

25日夜は、特別のイベントがあった。  
『かがり火』といえは、菅原敏一さん  
が発行する隔月刊誌。毎号さまざまな  
地域で活動する無名の人に光を当て  
て紹介する。他に類例の無い内容だ。  
熱心な読者が多いが、出版不況のご多  
分にもれず、惜しまれながら廃刊する  
ことになった。



終刊号の発刊がコロナ禍で遅れる中、菅原さんの発案でオンラインの支局長会  
議を開催することになった。「支局長」とは『かがり火』独得のもので、全国に百数  
十名が任じられている。正士さんをはじめ、雑誌の会員にも十数名おられ、ほくも名前だけの  
支局長になっている。各地の人物を紹介したり、原稿を書いたりするのが役割だ。

コロナ禍、その支局長をオンラインで結び、話し合おうという趣旨である。第1回は  
水野俊哲さんがとり上げられた。長野・上田市に住む水野さんは、樹医にして高木代  
探などのプロ。先年、木船さんの荒地の草刈りで初めてお会いしたが、その刈り幅の広さ  
と速さに目玉みはした。一昨年は千曲川の川下りで一緒した。とていば、千曲川で  
一緒だった前田駿さん(京都市)が、昨年9月から音信が途絶えているので心配だ。

2回目は、千葉のガレバー農家。(倉澤元雄さんではない) 3回目に、正士さんに白  
羽の矢が立った。日暮くに猫の手クラブもとり上げることで、正士さんと連絡があった。

正士さんのパソコンを覗んでみんな集まったが、うまく通じない。土井さんをはじめ、康江、  
久米、若林さんが寄ってたかいていじった結果、i/Pドでようやく菅原さんと通じた。

はじめに菅原さんの挨拶。

「昨年、心臓の手術をした。4人部屋で、ほとりの患者は『苦しい、死にたい、殺してくれ』と  
叫ぶ。私は胸の痛みを紛らすため、これまで付き合ってきた人々の顔と思い出すことにした。  
初めに浮かんだのが、アケちゃん(鈴木武史、静岡・掛川市横須賀のお祭り大好き人間、故  
人)。会葬御礼を自分で書いて亡くなった。死に才は生き方。

日本は衰退している。ダメにしているのが高齢者。『ゴミの意識が少ない。個人資産  
の総額が2千億円と、金持がドカという。おどろく家族や子どものためだろう。

私は15日間入院して払ったのは19万円。割戻担だが、アメリカなら何百万円もとら  
れたろう。世界一患われている。

6月に馬路村で集まりを予定だが、コロナでどうなるか。『かがり火』最終号は2月に  
出す予定だったが、コロナで取材ができず、遅れる」

続いて、正士さんが撮影した山仕事の動画(抜すい)が流れ、正士さんが解説。正士さんが地域のために働いていることを、菅原さんが紹介。

次いで、部屋にいる各人の紹介。そのあと、ほかのことにも菅原さんが言及された。これは菅原さん、九九里歩みや会津、信越トレイルなどについても話させたかったが、その旨を書いたノギキが届いたのは、ほかが静岡に出发したあと。津印は1月21日(木)になっていたが、昨秋から翌日配達、土曜配達が無効されたため、出発前に届かなかったのだ。皆さんも気を付けて下さい。

ついでにいうと、郵便局で雑報の会費などを支払うとき、現金だと110円の窓口手数料がかかることになった。雑報の会費のように、手数料受取人印(赤色)でも同じ。110円払わずに済ますには、預金通帳と印鑑かゆうちょカードが必要。

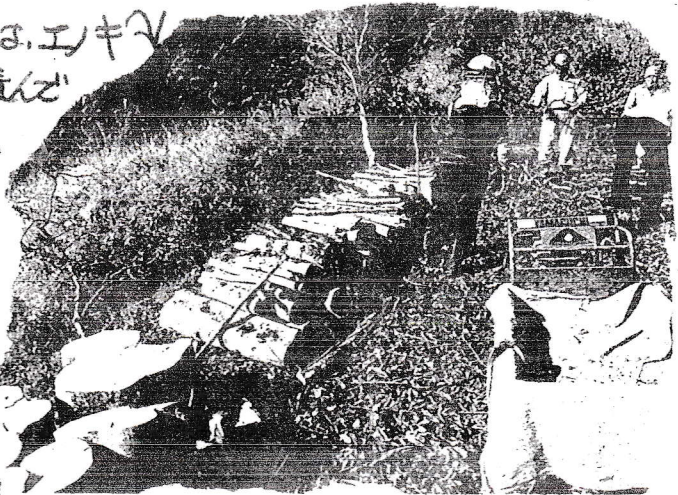
見ていた支局長からも発言があった。水島和寿代さん、お久しぶり。

……と、こは調子で1時間半。この時は、熱が下がった英ちゃんも参加していた。

(夕食)大根とブリのあん煮、白菜と豚バラ煮、サモシとホタテのカレパチョ、里芋の天ぷら、野菜と干しエビ炒めあんかけ、カツオの刺身、シタケ(青山さん提供)として、正士さんの手打ちソシメと米炊のだしかけし。村田さんから喜蔭饅頭。ほかは見えてはだけ。

1月26日(水)、晴。土井さんと若林さんは、エンジンを運搬車で下におろす。道路脇に積んだストーブ用に絞った薪に荷をのせておこう。残りのメンバーは細かい枝の整理。

(昼食)台所でカレーどん。



そこで、青山さんがシタケ原木の代金25000円を持って見えた。正士さんはそれをそっくり隣家に渡した。このように、正士さんは自家のことだけでなく、地域によかれと活動しているのだ。

どうにか動けるようになった英ちゃんと、ミレのない編成がある在来線と避けたら、5人全員、掛川から新幹線で帰宅。次回、2月16~18日。

(後日、正士さんから電話あり。25000円を英ちゃんに渡したところ、15000円を正士さんへという。押し問答の末5000円だけ受けとり、チェーンなどの燃料として猫の手基金へ)  
次ページに、正士さんの「お便り」。

1/24~26にかけて猫の手の活動ありがとうございました。

遅くなりましたが1月の山仕事の写真をお送りします。

今回1月は、築地書房の土井社長が参加くださいました。お着く力があり助かりました。また、今回は山仕事の他「かがり火のオンライン支局長会議」やいろいろなアクシデントがありました。

1/25 17:00~19:30まで「かがり火のオンライン会議」では、かがり火の菅原さんが厚正さんと私を取り上げてくださり、猫の手クラブの活動について紹介させていただきました。菅原さんからいろいろお褒めを頂き恐縮しています。

1/24には原田さんがコナラの玉切中に左足の甲にチェーンソーの刃先をあててしまい磐田病院へ。骨には異常なかったものの幅1cm、長さ3cm位、チェーンソーの刃でひっかいてしまい9針も縫う怪我をしてしまいました。私のボランティアの仕事で痛い思いをされて申し訳なく思っています。早く完治されるのを祈るばかりです。

また、厚正さんも下痢気味で体調が悪く、お二人の本領が発揮できず大きな戦力減となりました。それでも土井社長や山崎さん、若林さん、久米さんの頑張りで、懸案だった隣家の丑雄さんのコナラの玉切と枝葉の処理、それに青山さん宅への運搬と大仕事をこなして頂きました。

おかげで周りがすっかり奇麗に片付き、草も刈りやすく、広々とした景観になりました。嬉しいことです。

そして、コナラの原木はシイタケ農家の青山忠義さんが買ってくださいさり、しめて25,000円となりました。鈴木丑雄さんからとてもよろこばれ、お礼として15,000円くださるといので、それは戴けないとお断りしたのですがどうしてもということでガソリン代として、5,000円だけいただきました。猫の手基金に積立、備品購入の経費に当てさせて頂きます。ありがとうございました。

また、今回も皆さんよりたくさんのお差し入れを頂きました。

○厚正さんより、自ら栽培された里芋を沢山お送りいただきました。伊藤康江さんが天ぷらにしてくださいさり美味しくいただきました。

○伊藤康江さんから山口産の蒲鉾とごぼう巻き、それにエソという魚のはらみの干物をお送り頂きました。

○森町の袴田克臣さん(女性)から前回はビール、今回はシカ肉のお刺身を頂きました。

○築地書房の土井二郎社長から甲斐の開運、搾りたて生原酒を頂きました。

○内田美智子さんより、またまたおいしいお鯉頭をお送りいただきました。毎回お送りいただき恐縮の極みです。

○青山忠義さんから生シイタケと猫の手の皆さんにカットした干しシイタケのお土産を頂きました。ありがとうございました。

○隣家の鈴木丑雄さんから発泡酒2パックと各種つまみを頂きました。

○私の妹から、皆さんへのお礼の意味でカツオの刺身の差し入れがありました。

皆さんの猫の手へのお気遣いに感謝です。みんなとてもおいしくいただきました。ありがとうございました。

鈴木正士